

4.3 生物部

(1) 平成24年度の活動概要

本年度は、1年生に8人、2年生に3人計11人の部員が入部し、ニワトリの胚発生へ転卵の影響実験、透明骨格標本の作成、花の形を決める遺伝子の研究、花の色についての研究等を行い、年間を通し活動ができた。東海地区フェスタ、AITサイエンス大賞、自然科学部交流会、科学三昧、愛知県高等学校文化部連盟等で発表した。

(2) 参加活動

ア 東海地区フェスタ 7月14日 (名城大学)

研究発表

「卵の置き方・転卵の発生への影響についてⅡ」

イ 中学生実験講座 顕微鏡観察実習指導

8月9日 (本校 一年生教室)

自分たちで用意をした微生物 (アメーバー、ミドリムシ、ボルボックス等) の観察と万能ネギの根端を利用した体細胞分裂の観察指導を行った。



中学生に解説する生徒

ウ 文化祭発表 9月5日 (本校 生物講義室)

昨年に引き続き、生理学研究所から錯視体験の道具をお借りし、体験実施と展示をした。また、生物部でも「エイムズの部屋」、「ついてくる顔」を作成し、展示した。



作成したついてくる顔

エ 朝日新聞高校生科学技術チャレンジ (JSEC) 応募1点

オ 自然科学部交流会 11月11日 (名古屋大学)

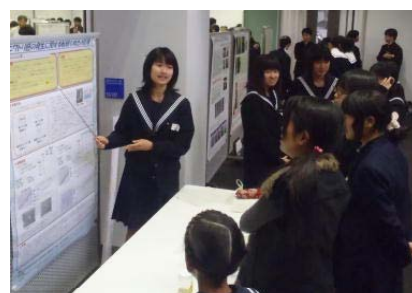
ポスター発表

「卵の置き方・転卵の発生への影響についてⅡ」

カ 第11回 AITサイエンス大賞

11月18日 (愛知工業大学)

自然科学部門「卵の置き方・転卵の発生への影響についてⅡ」発表



説明する生徒 (交流会)

キ 科学三昧 in 愛知2012

12月26日 (岡崎コンファレンスセンター)

ポスター発表

「卵の置き方・転卵の発生への影響についてⅡ」

ク 愛知県高等学校文化連盟自然科学部研究発表会

2月9日 (名古屋市科学館)

研究発表

「卵の置き方・転卵の発生への影響についてⅡ」



説明を受ける生徒たち

(3) アドバンスドプログラム

ア 実施日時 11月4日 (日) 9時30分～15時30分

イ 実施場所 名古屋大学大学院 農学研究科

ウ 指導者 研究員 中川 繭 先生

エ 実施内容

植物一般の花の構造の説明、花の構造観察、花式図の描き方の説明、花式図を描く実習を指導していただいた。さらに花を作る遺伝子 ABC モデルの解説をしていただき、生徒がこれからシロイヌナズナを研究材料として利用していくので、あわせてシロイヌナズナの栽培の仕方、人工交配のさせ方を教えていただき、人工交配の実習を行った。